

保育計画成果報告書

法人名	学校法人栄光学園
施設名	認定こども園くるみの木
報告者（役職）	岡村順子（副園長）
住所・連絡先	〒962-0015 福島県須賀川市日向町194
	☎ 0248(94)2129 FAX0248(75)4869 E-mail aisei@orion.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

でんでこ山で遊ぼう

○主な助成備品

大型遊具（園庭設置）でんでこ山

1. 実施した保育計画策定の目的

歩行が完成していない子ども、歩行が完成したけれどもまだ安定していない子どもの身体的な機能の発達を促すことを保育計画の目的としました。

当園はもともと50年の歴史を持つ愛星幼稚園が愛星保育園を立ち上げ、2013年1月に認定こども園としてスタートしました。その際、園舎の移転を行いました。園庭には0～2歳児用の遊具を置くことができませんでした。

そこで、今回の助成金によって、子どもたちの運動機能が促進されるよう、大型遊具を設置しました。低年齢の子どものための遊具ですので、ほんわりとした形と山登りのようなイメージがあることから「でんでこ山」と名付けました。



でんでこ山と砂場



でんでこ山の斜面



手作りの贈呈プレート

2. 具体的な実施内容

【登る】

階段ではなく、ロッククライミングに使用する突起をつけ、足にひっかけて登ったり、突起をストッパーがわりにしたりして、バランス感覚を養えるようにしました。



突起を掴んで登る様子



足をひっかけて降りる様子



3歳児になると登るのも速い

【滑り降りる】

反対斜面はそのまま滑り降りるような平面としました。月齢（年齢）の小さな子どもは、保育者の手を借りて滑りますが、そのうち寝転ぶ姿勢で自分から滑るようになります。また、年齢が大きくなると、座らずに立ったまま降りることができるようになります。



突起のない平らな面



保育士が手助けして滑り降りる

【くぐる・砂場遊び】

トンネルをくぐるという全身運動だけでなく、少しかくれが的な要素を加え、子どもたちの大好きな場所にしました。また、トンネルをくぐった先に砂場を配置し、遊びがさらに広がることを考えました。



トンネルくぐりを楽しむ園児達



時には隠れ家として、
その先の砂場の入り口として

3. その成果と評価

- ① ただの滑り台ではなく、あまり高さはありませんが、山のぼりのような感覚で子どもたちが登っている姿が印象的であり、「でんでこ山」という名称がとても合っています。
- ② 頂上で、あるいはトンネルになっているところで、トンネルをぬけたところにある砂場で、いろいろな遊びが展開しており、子どもたちの関わりがたくさん見られるようになりました。
- ③ 0～2歳児の発達促進を意図して作られた高さ、大きさですが、3～5歳児や児童クラブの小学生もよく遊んでいます。ちょっと隠れることのできるスペースがあり、でんでこ山を通して、仲間で遊ぶ姿が多くみられたり、異年齢の子どもたちのかかわりが生まれたりしています。

4. 今後の課題と展望

- ① 異年齢の子どもたちが園生活を送っている保育施設ですが、さらに当園では0～5歳児の子どもたちに加え児童クラブの子どもたちも一緒に過ごすことがあることから、その際の安全確保が課題です。特に年齢の低い子どもたちが遊んでいる場合には、安全確保を大切にしながらも、年齢の高い子どもの遊びを制限・禁止するのではなく、安全に気を付けながら一緒に遊ぶ方法を、一緒に考えていくようにしていきたいと思っています。
- ② 登るための縄をつけるなど、今後もこのでんでこ山をさまざまに変化させながら、子どもの運動能力の発達を促進していきたいと考えています。

以上